



ウズベキスタンのスポーツ合宿団が8月16日～23日、舞鶴を訪問。柔道選手団は、25日から東京で開催される世界柔道選手権を前に最終調整に入った。レスリ

ング選手団は、市内ちびっ子レスリング教室と練習を共にした。また、19日には市長表敬訪問や市民交流会・壮行会に出席し市民応援団らと交流した。

研鑽

レスリング
柔道合宿団

世界選手権を直前に控える柔道選手団。リオ五輪銅メダリストをはじめとする選手が練習に励んだ。全員が豪快な技を見せた。



刺激となる外国人選手との交流

8月18日、レスリング選手団が舞鶴ちびっ子レスリング教室の子ども達と合同練習を実施。ウズベキスタン側が用意したメニューで新しい練習方法や技術を吸収した。



▲20年前に日本人夫婦が開いた無料の私塾「NORIKO学級」の生徒と交流。同校で日本語を学び日本へ留学・就職するウズベキスタン人も多い。



日本人墓地を訪問

首都タシケントのヤッカサライ区にある日本人抑留者の墓地を訪問。献花・焼香と「ふるさと」の合唱をし、抑留者の冥福を祈った。ソ連によって抑留され、無念にも帰国がかなわなかった79人が眠っている。



▲12日にはウズベキスタンのオリンピック委員会を訪問。同国選手団を歓迎することやこれを契機に引き続きスポーツや文化・歴史などさまざまな交流を深めていきたいと意見を交換。

交流加速

ウズベキスタン
交流訪問団

オリンピックを前に交流訪問団が8月6日～13日、ウズベキスタンを訪問。両国の友好を深め、オリンピック本番に向け歓迎ムードを盛り上げていくことが目的。市長をはじめとする代

表団とレスリング・柔道関係者や舞鶴引揚語りの会会員などの市民訪問団計35人が同国オリンピック委員会や抑留、引き揚げに関する施設、現地の日本語学校などで交友を深めた。

世界の舞台で再会したい

内田颯夏選手



ウズベキスタンのことはあまり知りませんが、一緒に練習したことで外国の選手の強さを知ることができました。一方で、技をかけることができ、自分たち日本人も負けていないと感じました。

練習中は、言葉は通じなくても動きや表情で伝えてくれたので意思疎通ができました。学校の授業で抑留やウズベキスタンのことを習うことがあればこの経験を生かしたいです。

また、ウズベキスタンの選手と試合でも戦いたかったです。国内で勝ち上がってアジア大会や世界大会で戦えるよう、お互いに練習を頑張っていきたいと思っています。

スポーツにとどまらず友好を

ソビロワ ライロホン選手



日本に来たのは2回目です。日本人は優しく、温かい歓迎してくれるので好きです。いろんな国に行っていたことがありますが世界で一番優しい国だと思います。

ちびっ子レスリング教室の子ども達と一緒に練習をしました。とても礼儀正しかったです。また、こんなに小さい頃からレスリングの練習を始めるのはすごいと思います。

スポーツに限らず、日本といろいろな交友が深められたらいいなと思っています。日本人の友達を作りたいと思っています。また、日本語も少しずつ覚えていきたいと思っています。

世界選手権を前に有意義な練習

ウロズボエフ ディョルベック選手



日本には何回も来たことがあり、とても良い国だと思っています。柔道は、日本の武術ですが、ウズベキスタンでもとても人気

がある競技です。一方で、日本人抑留者とウズベキスタンの話は、私は聞いたことがありますが、若い世代ではあまり知られていないようにも感じています。

今回は25日から東京で開催される世界選手権に先駆けて事前合宿ができたことで、日本の気候に体を慣らすことができ、直前の練習にも取り組めたので舞鶴に来られてよかったと感じています。

生で見た経験を伝えていきたい

市民応援団 川井玄仁さん



学校の先生からの誘いで訪問団に参加しました。その時点ではウズベキスタンのことも詳しくなく、海外に行くのも初めてだったので不安な気

持ちとわくわくした気持ちの両方がありました。

ナヴォイ劇場を見学したときには、広さやきれいさにも驚きました。また、細かな手彫りの装飾が印象的でした。これも日本人抑留者の人たちの仕事なのかなと思いました。

また、ウズベキスタンのことをよく知らない人もたくさんいるので、見てきたきれいな景色や歴史的な遺産のことなどを身近な人に伝えていきたいと思っています。

抑留・友好の歴史を声で伝える

市民応援団 木村智子さん



2年前、南公民館でウズベキスタンの体育文化スポーツ大臣の歓迎イベントの司会をしたことからウズベキスタンに興味を持ちました。

父が引揚援護局で働き、母が局内に生け花を飾ったり引揚者に献茶をしていたこともあり、日本に帰ってこられなかった人たちに母ができなかった献茶を日本人墓地で行いました。

朗読ボランティアとして活動しており、ウズベキスタンのことや引き揚げのことを小学生に話す取り組みをしているので、今回の訪問で得た経験を子ども達に伝えたり、ボランティアの仲間たちと共に、皆で朗読イベントなどを実施し多くの人に伝えられたらと思っています。

この経験を国際交流に生かしたい

日星高校卒業生 真下菜里さん



高校生の頃、スルタンフさんの孫娘のリソラットさんと仲良くなりました。昨年、引揚のイベントでリソラットさんと再会し「今度は私が会いに行く」と約束

しました。その後、市民応援団や訪問事業のことを知り応募・参加しました。現地では言葉が通じなくても表情や身振り手振りで思いは伝わるということや、国が違えばいろんな考え方や視点を持っていること、それを認め合うことの大切さを学びました。

今回の体験やウズベキスタンのことを学校の友達に伝え、広げていきたい。また、将来は舞鶴で国際交流の仕事に就き、この体験を生かしていきたいと思っています。